

第6章 サイン類に関する計画

第1節 基本的な考え方と整備方針

来訪者が現地で米子城跡を理解するうえで、必要不可欠な事項についての解説・案内表示（サイン）を整備し、併せて多言語化についても検討する。城内の歩行者動線は遊歩道及び自由散策を維持しながらも段階的な整備に合わせて、動線上に案内板やサイン類を設け、来城者を見学地点に誘導する整備を行い、多くの来城者が米子城跡全体を散策できることを促す。また、「三の丸広場」と米子城跡本丸との一体的な回遊を促すために、登城路入口に歩行者誘導サイン類を設け、スムーズに案内できるような整備を行う。

基本的な考え方と整備方針は以下の通りである。

基本的な考え方	
<ul style="list-style-type: none"> ・個別遺構の説明表示を行うとともに、周辺の整備と合わせ、総合的な解説・案内表示（サイン）の整備を行う。 ・来訪者にとって現地で必要不可欠な情報を得て、わかりやすい統一的な解説・案内表示（サイン）を整備することで、米子城跡の正しい理解につなげる。 ・米子城跡の保存及び次世代へ継承していくことの意義を伝達することで、米子城跡への誇りや愛着を持つことができるようにする。 ・米子城跡の適切な保存と活用のために、必要最小限の解説・案内表示（サイン）を設置する。 	
整備方針	
配置	<ul style="list-style-type: none"> ・サインは、重要な遺構や地区が位置する場所、良好な眺望が得られる場所、見学のための主要分岐箇所等に配置する。 ・サインの形状や設置場所は、石垣や枳形等をはじめとする遺構の見学を阻害しないように留意する。 ・サインの設置に際しては、遺構への影響が最小限となるように留意する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達の目的を明確にした内容とする。 ・米子城跡の多様な価値、史跡指定範囲、歴史的変遷等の解説を行う。 ・米子城跡の特徴を顕著に表す遺構や、エリア及び眺望等についての解説を行う。 ・案内解説が多くの人に理解しやすいよう、城跡や遺構のイラスト、発掘調査の写真等を積極的に取り入れる。 ・米子城跡が有する城郭としての価値以外の自然や景観、公園等他の要素の価値についての解説を行う。
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡の景観に調和するデザインや外観とする。 ・情報の追加更新が可能な構造、形状とする。 ・耐候性を考慮し、維持管理しやすい素材を使用する。
表記	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で多言語化表記やピクトグラムとの併記に努める。 ・マナー啓発、危険表示や禁止行為は、言語を問わず認識できるようにピクトグラム等を使用する。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドマップやパンフレット等との整合性を図る。 ・史跡指定地内に留まらず、米子城跡周辺のサインも含め総合的に検討する。 ・城下町エリアも含め、中心市街地に米子城跡の存在を感じることができるサインの設置を検討する。
-----	---

サイン整備の種別

米子城跡の保存と活用に必要なサインを、伝達すべき情報の要素から「案内」・「記名」・「解説」・「誘導」・「注意」・「自然環境」の6種類に分け、情報伝達の目的と設置箇所を以下に示す。

目的		掲載情報等	設置箇所
案内	城跡案内	<ul style="list-style-type: none"> ・米子城跡全体の案内（見学ルート、位置図、注意喚起等） ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・枅形登城口、表坂登城口、深浦側登城口、飯山登城口、中海側登城口、湊山公園側登城口、三の丸内堀跡付近、二の丸裏御門側虎口、二の丸登城路、深浦郭入口、水手郭入口、内膳丸入口、本丸鉄門跡付近
	周辺案内	<ul style="list-style-type: none"> ・城下町エリアも含めた総構範囲の案内 ・米子市周辺の広域の案内 ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本丸東屋(既存)
記名	史跡	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡名称 	<ul style="list-style-type: none"> ・枅形登城口(既存) ・湊山公園側登城口
	郭	<ul style="list-style-type: none"> ・郭の名称表示 ・郭の解説 ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各郭
解説	城跡	<ul style="list-style-type: none"> ・米子城跡の概要説明（概要、指定範囲、歴史等） ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・枅形登城口(既存)、湊山公園側登城口(既存)
	各種遺構	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内の遺構説明（天守台、登り石垣、堅堀等） ・城跡周辺の説明（内堀、外堀、城下町エリア等） ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内各所 ・遺構各所 ・郭跡、城下町各所
	石垣	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴解説（積み方・特徴等） ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣各所
	調査・整備	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査や保存整備における情報公開と安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査箇所、整備工事箇所
誘導	行先表示	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内の順路案内 ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内通路
注意	危険表示	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の危険表示（利用上の注意等） ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内各所
	禁止事項	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡保存のための禁止事項（立入制限、火気使用厳禁、ドローンの使用禁止等） ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内各所

<p>自然環境</p>	<p>自然環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木、植物、野鳥等の説明 ・表記の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本丸(既存)、内膳丸、飯山(采女丸)等
-------------	-------------	---	--

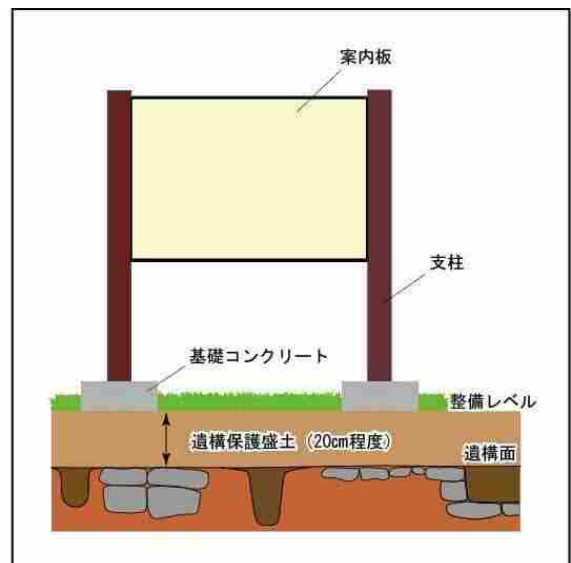


サイン整備計画位置図


第2節 米子城跡サイン類デザインルール


以上の、整備計画に基づき、具体的な計画として、地元の国立米子工業高等専門学校総合工学科建築デザイン部門小椋研究室の学生と連携して、サイン類の基本設計を以下のように策定している（令和3年度策定）。

基本理念としては、遺構保護を前提とし、全ての利用者に伝わるユニバーサルデザインを基本とする。デザインコンセプトとして、誰にでもわかりやすい丸・三角・四角(台形)を基本のかたちとし、それぞれのかたちの意味から伝える情報を決定しサイン看板に反映する。詳細については、以下に述べる。




サイン類設置計画図

<p style="text-align: center;">米子城跡サイン類整備計画基本設計委託事業</p>  <p style="text-align: center;">米子城跡サイン類 デザインルールブック</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>目次</p> <p>1章 はじめに</p> <p>1-1 基本理念 ユニバーサルデザインを基本としたサイン計画</p> <p>1-2 デザインコンセプト</p> <p>1-3 これまでの経緯と現状の課題</p> <p>2章 詳細ルール</p> <p>2-1 種類</p> <p>2-2 サイズ(高さ・幅・形状などの寸法)</p> <p>2-3 デザインの発展例</p> <p>2-4 カラー</p> <p>2-5 フォント・文字サイズ(その他文字に関するルール)</p> <p>2-6 材質(その他手法に関するルール)</p> <p style="text-align: right;">2</p>
---	--

<p>第1章 はじめに 1-1 基本理念</p>  <p style="text-align: center;">シンプルで分かりやすく 米子城に相応しいデザインで</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>第1章 はじめに 1-1 基本理念</p> <p style="text-align: center;">年齢、性別やハンディキャップに関係なく全ての利用者に 伝わるデザインでなければならない</p> <p style="text-align: center;">したがって私たちが提案するのは ユニバーサルデザインを基本としたサイン計画である</p> <p style="text-align: right;">2</p>
--	--

<p>第1章 はじめに 1-2 デザインコンセプト</p> <p>三種のかたち</p>  <p style="text-align: center;">丸 三角 四角(台形)</p> <p>誰にでもわかりやすい丸・三角・四角(台形)を基本のかたちとしてデザインする</p> <p style="text-align: right;">3</p>	<p>第1章 はじめに 1-2 デザインコンセプト</p> <p>米子城を中心とする街の景色</p>  <p style="text-align: center;">丸・三角・四角(台形)のような幾何学なかたちは米子の景色に溶け込んでいる</p> <p style="text-align: right;">4</p>
---	---

<p>第1章 はじめに 1-2 デザインコンセプト</p> <p>古くから愛された伝統や歴史</p>  <p style="text-align: center;">和柄模様 ① 家紋 ② 狭間 ③</p> <p>古くから伝わるデザインにも丸・三角・四角(台形)が多用されている</p> <p style="text-align: right;">5</p>	<p>第1章 はじめに 1-2 デザインコンセプト</p> <p>かたちの意味と伝える情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ : あたかみ、柔らかい、優しさ、神秘性 ▶ 利用施設の案内、生物の紹介 △ : 危険、攻撃的、不安定、安定、バランス ▶ 禁止・注意の周知、目的地への誘導 □ : 安定感、規律性、真面目、信頼感 ▶ 歴史の紹介、全体地図 <p>それぞれのかたちの意味から伝える情報を決定しサイン看板に反映する</p> <p style="text-align: right;">6</p>
--	---

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題

①看板デザイン
山中および芝生(三の丸広場など)を背景とした時の見え方の検討

②カラーデザイン
色弱の方でも識別できるユニバーサルデザインの検討

③現地調査
モックアップの作成、デザインの修正、ブラッシュアップ

9

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題 ~看板デザイン~

山中・林道でのイメージ



10

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題 ~看板デザイン~

芝生・広場でのイメージ



11

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題





①看板デザイン
山中および芝生(三の丸広場など)を背景とした時の見え方の検討

②カラーデザイン
色弱の方でも識別できるユニバーサルデザインの検討

③現地調査
モックアップの作成、デザインの修正、ブラッシュアップ

12

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題 ~カラーデザイン~

一般型色覚	1型2色覚
	
2型2色覚	3型2色覚
	

一般型色覚に比べ色弱の方は特定の色差が分かりづらい

13

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題 ~カラーデザイン~

- ▶ 赤色は同化しやすく見えづらい場合が多い
- ▶ 白色ははっきりしておりどの色覚でも見えやすい

→ 白色をアクセント若しくは基調とした色使いをする

例: 看板の縁を白色で囲む
背景を白色にする
ワンポイントで白色を使う etc...

14

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題

①看板デザイン
山中および芝生(三の丸広場など)を背景とした時の見え方

②カラーデザイン
色弱の方でも識別できるユニバーサルデザイン

③現地調査
モックアップの作成、デザインの修正、ブラッシュアップ

15

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題 ~現地調査~

これまでに現地での看板デザイン検討を2回実施
第1回米子城現地調査:2021/10/22(金) 第2回米子城現地調査:2021/11/19(金)

<第1回米子城現地調査>
米子市役所職員による米子城の史跡としての解説を受けたうえで、調査日の段階で完成していた看板デザインの報告を実施
報告後、看板のフォントサイズと視認距離の確認、色弱の方に配慮した色合いの検討等を実施



調査結果(改善点)

- ▶ 看板デザインへの枠線採用(設置場所の明暗や看板の背景色を考慮した枠線)
- ▶ 看板背景色の再検討(森の中で景観を崩さないうえで視認性のある色の検討)
- ▶ 文字フォントのサイズ、種類の改善(文字を大きくし、より視認性のある文字フォントの検討)

16

第6章 サイン類に関する計画

第1章 はじめに
1-3 これまでの経緯と現状の課題 ～現地調査～

<第2回米子城現地調査>
第1回の調査より明らかとなった改善点を修正しさらに詳細な検討を実施
具体的には、山頂への登頂ルートを進みながら、看板が設置されるであろう箇所での各調査項目（看板サイズ、フォント、カラー）の検討と既存看板との比較等を実施



調査結果をもとに再度看板サイズ・フォントカラーなどの調整や設置の際の支柱構造等について協議を実施。


第2章 詳細ルール
2-1 種類

サイン看板の用途・形状の分類は大きく以下の4つとする

- 案内標識
 - 総合案内
 - 施設案内
 円型-①
- 解説標識
 - 生物・植物紹介
 - 歴史解説
 円型-②
四角型①②③
- 禁止標識
- 誘導標識

三角型-①
三角型-②

第2章 詳細ルール
2-1 種類 総合案内



※ご寄贈の場合は、赤枠内に企業名や企業ロゴを記載

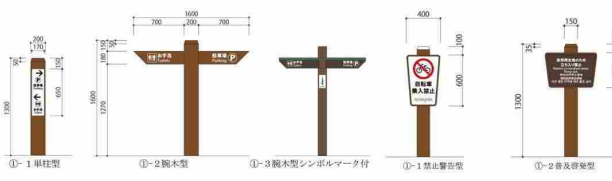
第2章 詳細ルール ～事例調査～
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

標識の種類	主な対象者	
	歩行者	ドライバー等
記名標識	入口標識	高さ ~3500mm 巾 ~5000mm
	公園名碑標識	高さ ~3500mm 巾 ~5000mm
案内標識	資源名標識	高さ ~2000mm 巾 ~2000mm
	総合案内標識	高さ ~2000mm 巾 ~3500mm
案内標識	案内図標識	高さ ~2000mm 巾 ~2000mm
	誘導標識	単柱タイプ 高さ~1600mm 巾 ~2000mm 腕木タイプ 高さ~1600mm 巾 ~1600mm
解説標識	案内図標識に準ずる	広い敷地 高さ~2000mm 巾 ~2500mm 狭い敷地 高さ~3000mm 巾 ~1500mm
指示標識	案内図標識に準ずる	—
注意標識	高さ ~1300mm 巾 ~800mm	—
境界標識	高さ ~1300mm 巾 ~200mm	—

【資料】景観計画部技術係「第3部 地景別技術係技術仕様書 第7章 公共標識（サイン類）」
http://www.city.yamaguchi.lg.jp/nature/park/tech_standards/11_3-7-1.pdf

第2章 詳細ルール ～事例調査～
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

- 標識の高さ: 1300~1600mm
- ・△→1400mm程度(地上から看板の中心) □→800~900mm程度(地上から看板の中心)
- 標識の大きさ: 200~300mm φ38~40 ※雑草や積雪を考慮すると+100~200mm



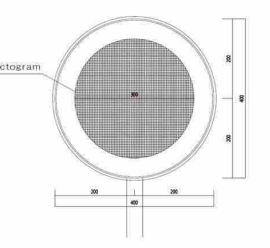
【資料】景観計画部技術係「第3部 地景別技術係技術仕様書 第7章 公共標識（サイン類）」
http://www.city.yamaguchi.lg.jp/nature/park/tech_standards/11_3-7-1.pdf

第2章 詳細ルール ～事例調査～
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

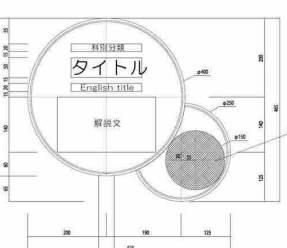
看板サイン・フォントサイズ、高さなどの事例調査を行い詳細ルールを決定した

第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

円型-① (中央ビクトグラム)




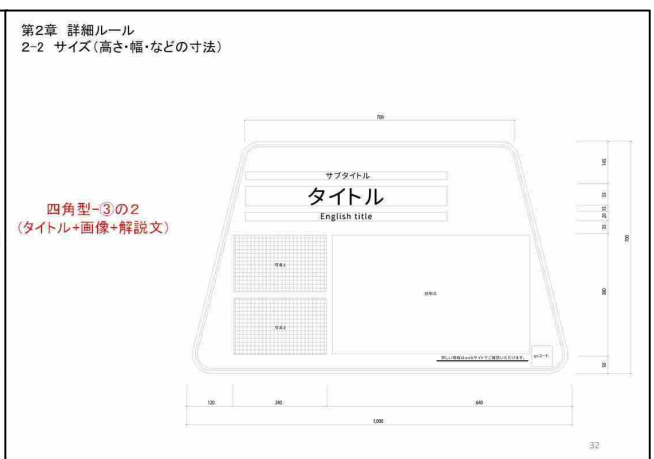
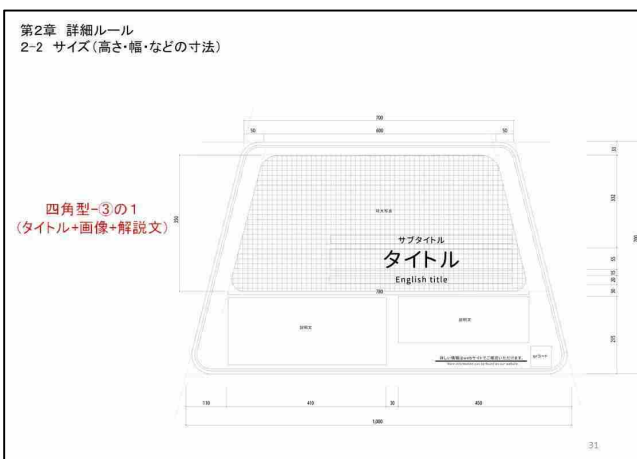
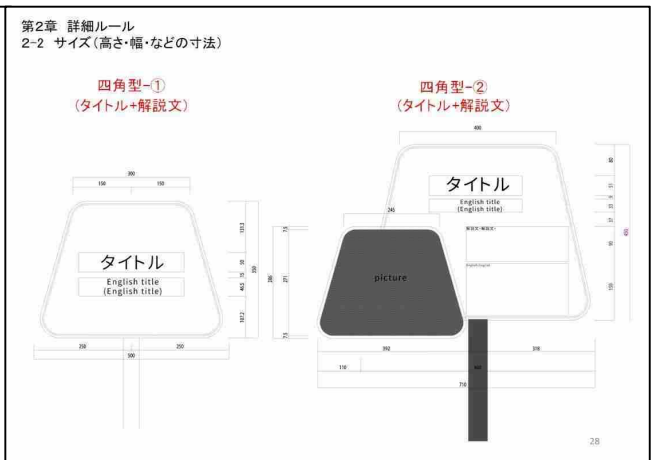
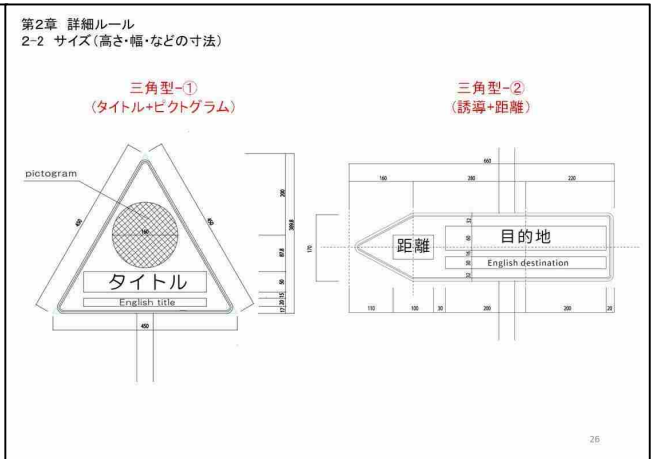
円型-② (タイトル+解説文+ビクトグラム)



第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

円型-① (中央ビクトグラム)





第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)



四角型-③の1
(タイトル+画像+解説文)

大きな画像を入れたいときはこの看板を採用する

33

第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)



四角型-③の2
(タイトル+画像+解説文)

複数枚の画像を入れたいときはこの看板を採用する

34

第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)


看板制作において各寸法の共通ルールを以下のように定める

- ▶ 角丸加工
半径50mm
- ▶ 枠線
大型(四角型③):太さ5mm 外縁からの距離8mm
小型(丸型 三角型 四角型①②):太さ3mm 外縁からの距離6mm

35

第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

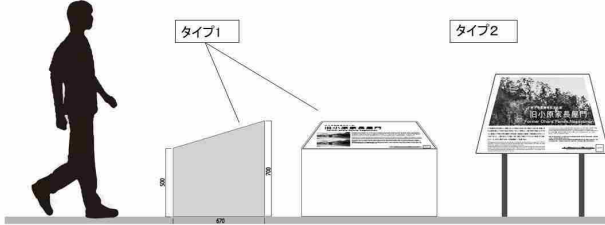
人物(身長160cm)との比較イメージ



36

第2章 詳細ルール
2-2 サイズ(高さ・幅などの寸法)

人物(身長160cm)との比較イメージ




タイプ1 タイプ2

大型の形③はサイズや支持の強度を考慮するとタイプ1の土台が好ましい

37

第2章 詳細ルール
2-3 デザインの発展例


四角形①②を複数使用し、より多くの情報を伝えることができる



38

第2章 詳細ルール
2-4 カラー

米子城跡「城」の雰囲気合う色として、
『日本の伝統色』から19色を選定



出品：DICカラーガイド 日本の伝統色第9版
DICグラフィックシステム株式会社

そこから現地調査を実施し、19色の中から10色を選定

39

第2章 詳細ルール
2-4 カラー

カラーコード

色	C	M	Y	K
薄紅	0	57	36	0
しょうじょうひ	6	92	75	0
こきくちなし	12	38	82	0
ときわ緑	69	0	100	38
緑青	62	23	55	0
瑠璃色	87	64	10	0
青にび	89	77	61	15
墨色	87	87	85	50
くわのみ	75	92	56	0
文人茶	71	77	80	0

40

第2章 詳細ルール
2-4 カラー(分類)

各項目から用途によって指定する色を使用

○ 丸カラー(植物・生物) → 明るく、目を引く色

花・植物(3色)

	薄紅	薄紅
	緑青	緑青
	ときわ緑	ときわ緑

生物(1色)

	こきくちなし	こきくちなし
--	--------	--------

○ 丸カラー(施設) → 文字やピクトグラムがわかりやすく

	瑠璃色	瑠璃色
--	-----	-----

41

第2章 詳細ルール
2-4 カラー(分類)

△ 三角カラー(危険) → 注意喚起の危険な色(1色)

	しょうじょうひ	しょうじょうひ
--	---------	---------

□ やじりし・台形カラー → 歴史系、お城に馴染む落ち着いた色(各2色)

▽ 矢印

	文人茶	文人茶
	墨色	墨色

□ 台形

	青にび	青にび
	くわのみ	くわのみ

42

第2章 詳細ルール
2-4 カラー(看板の色合いイメージ)

光を反射しない、マットな色→塗装仕上げ

しろ

くろ(墨色)

43

第2章 詳細ルール
2-4 カラー(ポールの色について)

ポールの色:くろ(墨色)

くろ(墨色)イメージ

44

第2章 詳細ルール
2-4 カラー(文字色と背景色の組み合わせ)

背景色が色付き→白文字

背景色が白→黒文字

こきくちなし色

こきくちなし色

45

第2章 詳細ルール
2-4 カラー(色の組み合わせの注意点)

色の組み合わせ 注意事項

- ▶ 濃い背景色に白文字は目に刺激が強い → 強すぎない色
- ▶ ダメな組み合わせ → 色弱の人にとって同じに見える色

みどり×茶

みどり×紫×グレー

46

第2章 詳細ルール
2-5 フォント・文字サイズ(その他文字に関するルール)

フォントサイズ(基準サイズ)

	(基準)フォントの大きさ			
	和文		英文	
	文字高さ	サイズ(pt)	文字高さ	サイズ(pt)
視認距離				
距離(10m)	40mm以上	113(pt)	30mm以上	85(pt)
距離(5m)	20mm以上	57(pt)	15mm以上	43(pt)
距離(1~2m)	10mm以上	28(pt)	7mm以上	20(pt)

47

第2章 詳細ルール
2-5 フォント・文字サイズ(その他文字に関するルール)

フォントサイズ(タイトル文)

看板分類	タイトル文					
	和文			英文		
	文字高さ	サイズ(pt)	行間(mm) 行送り設定	文字高さ	サイズ(pt)	行間(mm) 行送り設定
地図案内看板	55mm以上	156(pt)程度		20mm以上	57(pt)程度	
台形③	20mm以上	57(pt)程度		10mm以上	28(pt)程度	
サブタイトル						
一般看板	40mm以上	113(pt)程度		15mm以上	43(pt)程度	
三角形						
台形①、②						
サブタイトル	20mm以上	57(pt)程度		10mm以上	28(pt)程度	
誘導看板						
三角形	45mm以上	128(pt)程度		20mm以上	57(pt)程度	
丸型	50mm以上	142(pt)程度		20mm以上	57(pt)程度	
サブタイトル	20mm以上	57(pt)程度		10mm以上	28(pt)程度	

※1pt=0.3528mmで考慮 文字高さ/0.3528=サイズ(pt) 計算は四捨五入

48

第2章 詳細ルール
2-5 フォント・文字サイズ(その他文字に関するルール)

フォントサイズ(説明文)

看板分類	取明文					
	和文			英文		
文字高さ	サイズ(pt)	行間(mm)	文字高さ	サイズ(pt)	行間(mm)	
地窓案内看板 台形 ② ③	10mm以上	28(pt)程度	56(pt)程度	7mm以上	20(pt)程度	30(pt)程度
一般看板 丸形・三角形 台形形 ①	10mm以上	28(pt)程度	45(pt)程度	7mm以上	20(pt)程度	24(pt)程度
丸型	10mm以上	28(pt)程度	45(pt)程度	7mm以上	20(pt)程度	24(pt)程度

※1pt=0.3528mmで考慮 文字高さ/0.3528=サイズ(pt) 行送り設定はサイズ(pt)の1.2倍とし計算 四捨五入計算とする

※和文行送り設定は、台形②・③:サイズ(pt)の2倍 その他:サイズ(pt)の1.6倍とし計算

※英文行送り設定は、台形②・③:サイズ(pt)の1.6倍 その他:サイズ(pt)の1.2倍とし計算

49

第2章 詳細ルール
2-5 フォント・文字サイズ(その他文字に関するルール)

使用フォント: **源柔ゴシック**

▶ Mac、Windows 無料ダウンロードが可
▶ 読解のない文字で読みやすい
▶ 丸さが3種類、太さが7種類

源柔ゴシック (丸さ標準・Regular)

基準使用

源柔ゴシックL(丸さひかえめ) 字字字字字字字字
源柔ゴシック(丸さ標準) 字字字字字字字字
源柔ゴシックX(丸さ強め) 字字字字字字字字

太さ(Extra-Light、Light、Normal、Regular、Medium、Bold、Heavy)

出典: 自衛隊エンタテインメント <http://08asset.com/font/zenjuso/> 50

第2章 詳細ルール
2-6 材質(その他手法に関するルール)

～事例調査・検討～

構造体 耐久性鋼材
→耐久性や加工性に優れ経済性もそこそこある

接合部、ボルト 溶融亜鉛メッキ又はステンレス
→耐久性に優れる

表示板 アルミニウム ※短期利用=合成樹脂
→アルミは耐久性と加工性に優れメンテナンスも容易 経済性×
→合成樹脂は加工や経済性に優れるが耐久性に劣り一時的な利用に限る

印刷方法 シート張り又は特殊印刷技法

引用: 自然公園管理施設整備計画(第3巻)施設別技術指針(改訂版) 第7巻 公共施設 (サイン類) http://www.mma.go.jp/nature/guide/tech_guide/07_13_37-1.pdf 51

第2章 詳細ルール
2-6 材質(その他手法に関するルール)

～事例調査・検討～

看板ボールの素材
「アルミニウム」

耐久性◎経済性○加工の自由度◎

特徴

- ・軽い金属である
- ・耐食性が良い
- ・加工方法が容易である
- ・メンテナンスフリー
- ・半年に一回程度の清掃が必要

アルミニウム板にレーザー加工、焼付塗装

引用: 株式会社関西金属製作所 <http://www.kankin.co.jp/qa/q/a00401/index.html> 52

第2章 詳細ルール
2-6 材質(その他手法に関するルール)

～事例調査・検討～

表示板の反射

道路標識の多くは車のライトのよって反射しても見えやすい構造になっている
米子城は夜景を見に訪れる人も多いため安全性を考慮した反射加工も検討

株式会社アーテック | 反反射案内標識 <https://www.atec.co.jp/products/sign/reflectaction.html>

国土交通省 | 国土地方整備局 | 鳥取県 | 国産業務所 <http://www.gn.go.jp/keiho/kyokai/kyokai/kyokai/kyokai.html>

53

第2章 詳細ルール
2-6 材質(その他手法に関するルール)

～事例調査・検討～

取付方法の検討

溶接
接合金物
噛み合わせる

支柱を受ける金物を溶接し、支柱を取り付ける工法を採用予定

出典: sntamuse <https://sntamuse.com/ja/published/PI/No/2006070435> 54

第2章 詳細ルール
2-6 材質(その他手法に関するルール)

～事例調査・検討～

柱脚部分の工法

現状

看板との
調印が懸念点

検討案

- 1 底面のプレートをブロック全体を覆うように拡大
→コンクリートを自立たなくする
- 2 黒または看板の類似色に塗装
→背景や看板デザインに合わせる
- 3 コンクリート部を覆うカバーを作成
→自然に馴染むデザイン
- 4 ブロックを丸形にして看板デザインに合わせる
→違和感を与えないデザイン

・入手が容易で安価である
地先境界ブロック*を採用している

*1地先境界ブロック(JIS A 8371)
120*120*600(20kg)

・自然な理由のため認められるのは不可
・土台部分が分割できるため
高所の設置も容易

55

米子城跡サイン類整備計画基本設計委託事業

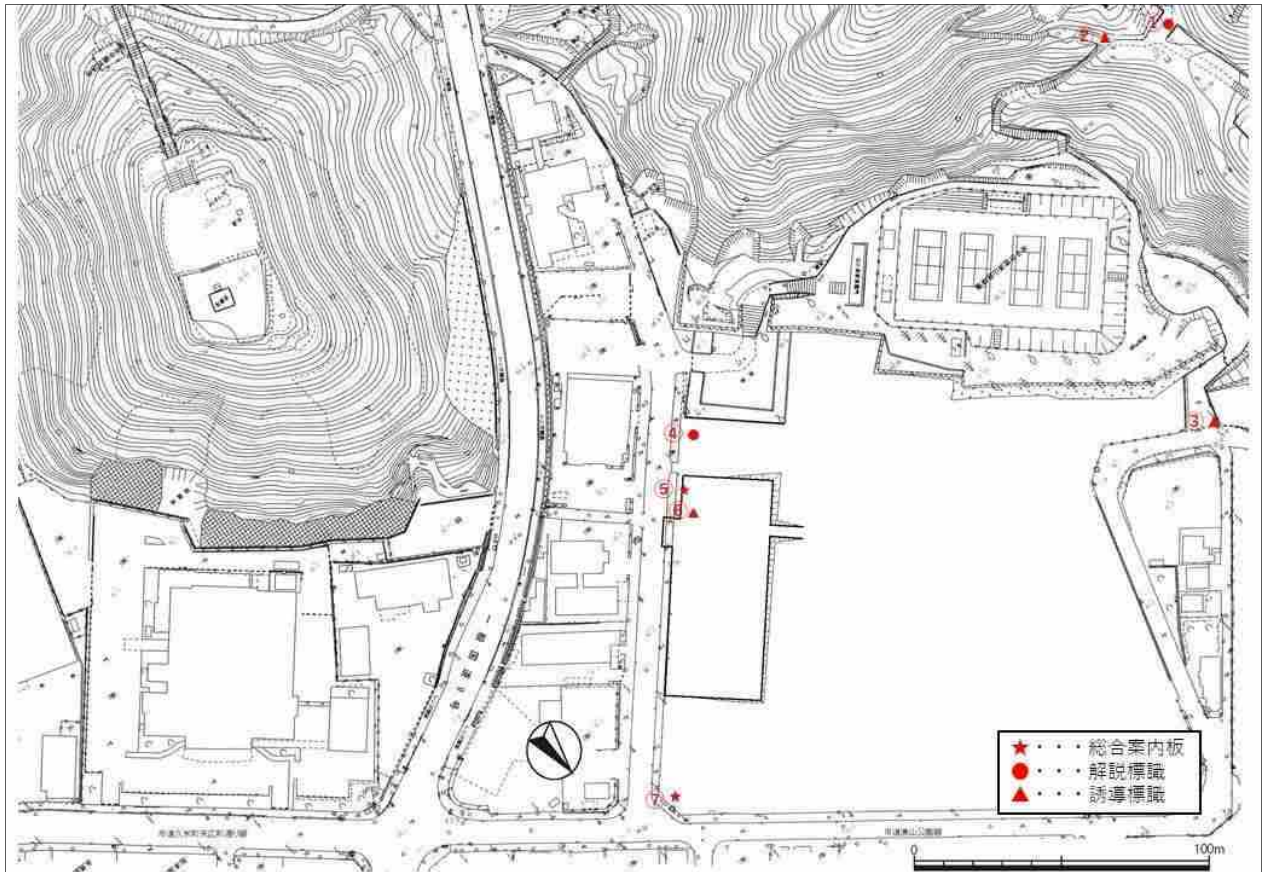
作成: 2022年8月
米子工業高等学校 総合工学科建築デザイン科 設計
小根弘俊 監修

※ 一階内部は、米子高等学校校務課施設設計課委託にて専任技士が作成しました。
米子工業高等学校 建築 室下智樹(2)・大下あ、菅原悠樹、津本崇樹、中山隼聖 (2021年度)
1年 武隈由里恵、持田南乃5・真山由輝・朝久千富 (2021年度)

56

第3節 看板設置について

前節の計画に基づき、米子城跡の各所に設置し、来訪者が城跡を理解し、散策しやすく、楽しんでもらうための案内看板を、国立米子工業高等専門学校総合工学科建築デザイン部門小椋研究室の学生と連携し、令和4年度から随時設置を進めているところである。



看板設置位置図（令和4年度）



総合案内板



解説標識



誘導標識